安全データシート

この安全データシート は以下の要件に準拠し ている :
JIS Z 7252:2019、 JIS Z 7253: 2019

発行日 17-1-2023 **改訂日** 17-1-2023 **改訂番号** 1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 Chromatech

登録番号 情報なし

安全データシート の供給者の詳細

製造者
The MazWell Group Ltd.
Units 11/14-15 Ardglen Industrial Estate,
Whitchurch, Hampshire,
RG28 7BB, United Kingdom
+44 (0)1256-893883
+44 (0)1256-893868
enquiries@themazwellgroup.com

供給者
株式会社コスモト レード アンド サービス。
東京都港区芝浦1-1-1浜松町ビル 7F。
TEL:03-3798-9315 / FAX：03-3798-9415

緊急連絡電話番号 +44 (0)1256 893883 (Mon- Fri 9:00 am - 4:30 pm GMT)
+81-3-3798-9315

電子メールアドレス enquiries@themazwellgroup.com

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 エンバーミング薬品

使用上の制限 目的のアプリケーションにのみ使用して ください

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

引火性液体	区分 4
誤えん有害性	分類できない
急性毒性(経口)	区分 4
急性毒性(経皮)	区分 4
急性毒性(吸入) - ガス	分類できない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉じん／ミスト	区分 4
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分 1

生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	区分 1A
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく 露)	区分 2 区分 3
区分 2 central、 視覚器、 全身毒性。	
特定標的臓器毒性(反復ばく 露)	分類できない
区分 1	
区分 2	
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

注意喚起語 危険

危険有害性情報
• 飲み込むと 有害
• 皮膚に接触すると 有害
• 吸入すると 有害
• 皮膚刺激
• 強い眼刺激
• アレ ルギー性皮膚反応を起こすおそれ
• 遺伝性疾患のおそれの疑い
• 発がんのおそれの疑い
• 呼吸器への刺激のおそれ
• 臓器の障害のおそれ
• 引火性液体
以下の臓器の障害のおそれ: central、 視覚器、 全身毒性。

注意書き
安全対策
• 使用前に取扱説明書を 入手すること
• 全ての安全注意を 読み理解するまで取り 扱わないこと
• 保護手袋／保護衣及び眼／顔面保護具を 着用すること
• 取扱い後は顔、手、露出し た皮膚をよく 洗うこと
• こ の製品を 使用するときに、飲食又は喫煙をし ないこと
• 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること
• 汚染さ れた作業衣は作業場から 出さ ないこと
• 粉じ ん／煙／ガス／ミ スト ／蒸気／スプレーを 吸入し ないこと
• 熱、高温のも の、火花、裸火及び他の着火源から 遠ざけること 。禁煙
応急措置
• ばく 露又はばく 露の懸念がある 場合: 医師に連絡すること
• 眼に入っ た場合: 水で数分間注意深く 洗うこと 。次にコンタクト レンズを 着用し ていて容易に外せる 場合は外すこと 。その後も洗浄を 続けること
• 眼の刺激が続く 場合: 医師の診察／手当てを 受けること
• 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること
• 口をすすぐこと
• 皮膚に付着し た場合: 多量の水と 石けん(鹸)で洗うこと
• 気分が悪いときは医師に連絡すること
• 汚染さ れた衣類を 脱ぎ、再使用する 場合には洗濯をすること

• 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること
• 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
• 気分が悪いときは医師に連絡すること
• 火災の場合: 消火するために乾燥した砂、粉末消火剤又は耐アルコール泡消火剤を使用すること

保管
• 施錠して保管すること
• 換気の良い場所で保管すること

廃棄
• 内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること

他の危険有害性
• 情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
ホルムアルデヒド	50-00-0	10 - <25	既存	(2)-482	既存	2-(8)-379
メタノール	67-56-1	5 - <10	既存	(2)-201	既存	(2)-201
2-メチル-2,4-ペンタンジオール	107-41-5	1 - <2.5	既存	(2)-240	既存	(2)-240
プロピレングリコール	57-55-6	<1	既存	(2)-234	既存	2-(8)-321,2-(8)-323
N-(ヒドロキシエチル)エチレンジアミン三酢酸三ナトリウム塩	139-89-9	< 1	既存	(2)-1268	既存	(2)-1268
脂肪族アルコールポリエトキシラート (C9-11)	68439-46-3	< 1	既存	(7)-97	既存	(7)-97
水酸化ナトリウム	1310-73-2	< 0.1	既存	(1)-410	既存	(1)-410
酢酸ベンジル	140-11-4	< 0.1	既存	(3)-1020,(3)-1045	既存	(3)-1045,(3)-1020

2023年3月31日迄 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
変換係数のデータが無い場合は係数は1として算出

化学名又は一般名	政令名称	金属、CN、F、その他	変換係数	含有率 %	区分	政令番号	管理番号
ホルムアルデヒド	ホルムアルデヒド			20	特定第1種指定化学物質	1-411	411

2023年4月1日以降 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
変換係数のデータが無い場合は係数は1として算出

化学名又は一般名	政令名称	金属、CN、F、その他	変換係数	含有率 %	区分	政令番号	管理番号
ホルムアルデヒド	ホルムアルデヒド			20	特定第1種指定化学物質	1-464	411

労働安全衛生法
通知対象物質

法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9及び第3号・別表3

化学名又は一般名	CAS番号	区分	政令番号	含有率 %
ホルムアルデヒド	50-00-0	通知対象物質	Attached table 9-548	20 - 30
メタノール	67-56-1	通知対象物質	9-560	<10
2-メチル-2,4-ペンタンジオール	107-41-5	通知対象物質	9-593	<10

表示対象物質

法第57条、施行令第18条第1号、第2号・別表第9及び第3号・別表3

化学名又は一般名	CAS番号	区分	政令番号	含有率 %

ホルムアルデヒド	50-00-0	表示対象物質	Attached table	20 - 30
メタノール	67-56-1	表示対象物質	Attached table	<10
2-メチル-2,4-ペンタンジオール	107-41-5	表示対象物質	Attached table	<10
水酸化ナトリウム	1310-73-2	表示対象物質	Attached table	<10
酢酸ベンジル	140-11-4	表示対象物質	Attached table	<10

毒物及び劇物取締法
劇物

化学名又は一般名	CAS番号	区分	含有率 %
ホルムアルデヒド	50-00-0	劇物(法律第2条、別表第2、指定令第2条)	20

4. 応急措置

一般的なアドバイス ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。 治療を行う医師にこのSDSを示すこと。

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移すこと。 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。 症状が出た場合には、直ちに医師の手当てをうけること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。 呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行うこと。直ちに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 汚染された衣服及び靴を脱ぎ、直ちに石けん(鹸)と多量の水で洗うこと。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合 直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。 洗っている間は眼を大きく広げたままにすること。 受傷部をこすらないこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。 刺激が生じて長引くときは、医師の手当てをうけること。

飲み込んだ場合 無理に吐かせないこと。 口をすすぐこと。 意識のない者には、何も口から与えてはならない。 医師の手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 掻痒感。 発疹。 じんま疹。 眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。 灼熱感。 咳及び／又は喘鳴。 呼吸困難。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項 すべての着火源を排除すること。 医療者に物質の関与を伝え、自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。 蒸気又はミストを吸い込まないようにすること。 指定された個人用保護具を着用すること。 詳細については項目8を参照。

医師に対する特別な注意事項 皮膚接触により感作を引き起こすことがある。 症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 粉末消火剤。 二酸化炭素(CO2)。 水噴霧。 耐アルコール泡消火剤。

使ってはならない消火剤 情報なし。

特有の危険有害性 製品及び空容器を熱源及び着火源から遠ざけること。 火災の場合には、水噴霧でタンクを冷却すること。 製品は感作性物質である、又は感作性物質を含む。 皮膚接触により感作を引き起こすことがある。

爆発性 爆発物ではない。

特有の消火方法 提供された情報に基づき知見なし。

消火活動を行う者の特別な保護具及び 消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。 個人

予防措置 用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 人員を安全な区域に退避させること。 指定された個人用保護具を着用すること。 詳細については項目8を参照。 静電気に対する予防措置を講ずること。 漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。 十分換気されているか確認すること。 人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。 蒸気又はミストを吸い込まないようにすること。

緊急対応を行う者のための保護具 項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。

環境に対する注意事項 項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。 安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。

封じ込め方法 リスクを伴わずに可能ならば漏えい(洩)を止めること。 漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。 後で廃棄するために液体流出物のかなり前方に堤防を築くこと。

浄化方法 静電気に対する予防措置を講ずること。 せき止めること。 不活性吸収材料で吸収すること。 回収して適切に表示された容器に移すこと。

二次災害の防止策 汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。

その他の情報 項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項 個人用保護具を使用すること。 蒸気やミストを吸入しないこと。 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 静電気に対する予防措置を講ずること。 局所排気換気装置を併用すること。 産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。 換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 汚染された衣類及び靴を脱ぐこと。

衛生対策 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 機器、作業区域及び衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。 休憩前及び製品の取扱い直後に手を洗うこと。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。 適切な手袋及び眼／顔面保護具を着用する。

保管

安全な保管条件 容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。 熱、火花、炎及び他の着火源(例えば、点火バーナー、電気モーター及び静電気)から遠ざけること。 適切な表示のある容器に保管すること。 個別の国内規制に従って保管すること。 現地の規則に従って保管すること。 子供の手の届かない場所に保管すること。 施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 シャワー
洗眼場
換気システム。

許容濃度

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
ホルムアルデヒド	Ceiling: 0.2 ppm	0.1 ppm	dermal sensitizer;respiratory

50-00-0	Ceiling: 0.24 mg/m³ TWA: 0.1 ppm TWA: 0.12 mg/m³		sensitizer STEL: 0.3 ppm TWA: 0.1 ppm
メタノール 67-56-1	TWA: 200 ppm TWA: 260 mg/m³ S*	200 ppm	STEL: 250 ppm TWA: 200 ppm S*
2-メチル-2,4-ペンタンジオール 107-41-5	-	-	STEL: 50 ppm vapor fraction STEL: 10 mg/m³ inhalable particulate matter, aerosol only TWA: 25 ppm vapor fraction
水酸化ナトリウム 1310-73-2	Ceiling: 2 mg/m³	-	Ceiling: 2 mg/m³
酢酸ベンジル 140-11-4	-	-	TWA: 10 ppm

生物学的職業性ばく露限界値

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	ACGIH
メタノール 67-56-1	20 mg/L - urine (Methanol) - end of shift	15 mg/L - urine (Methanol) - end of shift

環境ばく露防止 情報なし。

保護具

呼吸用保護具 通常の使用条件下では保護具は必要ない。ばく露限度を超えるか刺激が生じる場合には、換気及び排気が必要になる。

眼及び／又は顔面の保護具 密封性の高い安全ゴーグル。

手の保護具 適切な手袋を着用する。 不浸透性手袋。

皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用する。 長袖の衣類。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観
物理状態 液体
色 赤色
臭い 刺激臭。 香水
臭いのしきい値 情報なし

特性	値	備考 ・方法
融点／凝固点		データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	93 - 96 °C / 199.4 - 204.8 °F	@ 760 mmHg
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		データなし
爆発又は可燃の上限界	7%	
爆発又は可燃の下限界	73%	
引火点	63 °C / 145.4 °F	CC(クローズドカップ)
蒸発速度		データなし
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
pH	8.5 - 9.5	
粘度		
動粘性率		データなし
動的粘度		データなし
水への溶解度	水に可溶	

溶解度		データなし
n ーオクタノール／水分配係数(log値)		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		
相対密度	1.05 - 1.06	@20°C
蒸気濃度		データなし
かさ密度		データなし
相対ガス密度	> 1	
粒子特性		
粒径		該当しない
粒径分布		該当しない

その他の情報

爆発性	爆発物ではない
酸化性	酸化剤ではありません

10: 安定性及び反応性

反応性 通常の使用条件下ではない。

化学的安定性 通常の条件下で安定。

危険有害反応可能性 通常の条件下で安定。

避けるべき条件 熱、炎及び火花。 過剰な熱。

混触危険物質 強酸、 強塩基、 強酸化剤。

危険有害な分解生成物 提供された情報に基づき知見なし。

爆発データ
静電放電に対する感度 あり。

機械的衝撃に対する感度 なし。

11. 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

以下の値はGHS文書の第3.1章に基づいて算出されている:

ATEmix(経口)	1,813.60 mg/kg
ATEmix(経皮)	1,474.50 mg/kg
ATEmix(吸入 −粉じん／ミスト)	1.15 mg/l

未知の急性毒性

混合物の 1.21979 %は急性経口毒性が未知の成分から成る
混合物の 1.21979 %は急性経皮毒性が未知の成分から成る
混合物の 1.21979 %は急性吸入毒性(粉じん／ミスト)が未知の成分から成る

化学名又は一般名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
ホルムアルデヒド	= 100 mg/kg (Rat)	> 2000 mg/kg (Rat)	< 463 ppm (Rat) 4 h
メタノール	= 100 mg/kg	= 300 mg/kg	= 22500 ppm (Rat) 8 h

2-メチル-2,4-ペンタンジオール	= 3700 mg/kg （Rat）	= 12300 mg/kg （Rabbit）	-
プロピレングリコール	= 20 g/kg （Rat）	= 20800 mg/kg （Rabbit）	> 317 042 mg/m³ (Rabbit) 2h
N-(ヒドロキシエチル)エチレンジアミン三酢酸三ナトリウム塩	= 10000 mg/kg （Rat）	-	-
脂肪族アルコールポリエトキシラート (C9-11)	= 1400 mg/kg （Rat）	= 2216 mg/kg (Rabbit)	> 100 mg/m³ (Rat)
水酸化ナトリウム	= 325 mg/kg （Rat）	= 1350 mg/kg （Rabbit）	-
酢酸ベンジル	= 2490 mg/kg （Rat）	> 5000 mg/kg （Rabbit）	-

略語及び頭文字
Rat: ラット
Rabbit: ウサギ

症状 掻痒感。 発疹。 じんま疹。 発赤。 眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。 咳及び／又は喘鳴。

製品情報

経口 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。 飲み込むと胃腸刺激、吐き気、嘔吐、及び下痢を引き起こすおそれがある。 飲み込むと有害。（成分に基づく）。

吸入 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。 気道刺激を引き起こすおそれ。 吸入すると有害。（成分に基づく）。

皮膚接触 皮膚刺激。 皮膚接触により感作を引き起こすことがある。（成分に基づく）。 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。

眼接触 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。 強い眼刺激。（成分に基づく）。 発赤、掻痒感、及び痛みを引き起こすおそれがある。

皮膚腐食性／刺激性 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 強い眼刺激。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

生殖細胞変異原性 変異原性が知られている又は変異原性が疑われる物質を含んでいる。 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 遺伝性疾患のおそれの疑い。

発がん性 発がん性が知られている又は発がん性が疑われる物質を含んでいる。 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。 発がんのおそれ。

下表は各機関が何らかの成分を発がん性として記載しているかを示す。

化学名又は一般名	日本	IARC
ホルムアルデヒド 50-00-0	1A	Group 1
酢酸ベンジル 140-11-4		Group 3

凡例
国際がん研究機関
グループ1 - ヒトに対する発がん性がある
グループ2B - ヒトに対する発がん性が疑われる
グループ3ーヒトに対する発がん性について分類できない

生殖毒性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 国又は地域で採用され、SDSが準拠している世界調和システム(GHS)の分類基準に基づ

き、この製品は急性のばく露に起因して全身標的臓器毒性を引き起こすと判定されている。 飲み込むと臓器の障害のおそれ。 皮膚に接触すると臓器の障害のおそれ。

central、 視覚器、 全身毒性。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

誤えん有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 分類できない。

未知の危険有害性物質の濃度 混合物の 1.21979 %は水生環境に対する危険有害性が未知の成分で構成されている。

化学名又は一般名	藻類／水生植物	魚類	甲殻類
ホルムアルデヒド - 50-00-0	EC50 3.48 mg/L (72h, Desmodesmus subspicatus)	LC50: 6.7mg/L (96h, Morone saxatilis)	LC50: 5.8 mg/L (48h, Daphnia magna)
メタノール - 67-56-1	−	LC50: =28200mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: >100mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: 19500 - 20700mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 18 - 20mL/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 13500 - 17600mg/L (96h, Lepomis macrochirus)	−
2-メチル-2,4-ペンタンジオール - 107-41-5	−	LC50: 10500 - 11000mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: =10000mg/L (96h, Lepomis macrochirus) LC50: =8690mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: =10700mg/L (96h, Pimephales promelas)	EC50: 2700 - 3700mg/L (48h, Daphnia magna)
プロピレングリコール - 57-55-6	EC50: 24200 mg/L (72h, Pseudokirchneriella subcapitata)	LC50: 40613 mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss)	LC50: 18340 mg/L (48h, Ceriodaphnia dubia)
N-(ヒドロキシエチル)エチレンジアミン三酢酸三ナトリウム塩 - 139-89-9	−	LC50: =372mg/L (96h, Pimephales promelas)	−
水酸化ナトリウム - 1310-73-2	−	LC50: =45.4mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss)	−
酢酸ベンジル - 140-11-4	EC50: 92 mg/L (96h, Desmodesmus subspicatus)	LC50: 4 mg/L (96h, Oryzias latipes)	−

残留性 分解性 情報なし。

生態蓄積性

成分情報

化学名又は一般名	分配係数
ホルムアルデヒド 50-00-0	0.35
メタノール 67-56-1	-0.77

2-メチル-2,4-ペンタンジオール 107-41-5	0.14
プロピレングリコール 57-55-6	-1.07
酢酸ベンジル 140-11-4	1.96

土壌中の移動性 情報なし。

オゾン層への有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 分類できない。

他の有害影響 情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 現地の規則に従って廃棄すること。 環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。

汚染容器及び包装 空容器を再利用しないこと。

14. 輸送上の注意

日本 規制対象外

IMDG 規制対象外

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質
情報なし

IATA 規制対象外

15. 適用法令

国内規制
2023年3月31日迄 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
該当する、 詳細情報については項目3を参照
2023年4月1日以降 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
該当する、 詳細情報については項目3を参照

労働安全衛生法

特定化学物質等(特化則)
特定化学物質(第2類物質)ー労働安全衛生法施行令別表第3(第6条、第17条、第21条、第22条関係、及び特定化学物質障害予防規則)
健康診断を要する有害物質
健康診断 - 労働安全衛生法第66条、労働安全衛生法施行令第22条、及び特定化学物質等障害予防規則、別表第5
有機溶剤等(有機則)
第2種有機溶剤等ー労働安全衛生法施行令別表第6の2(第6条、第21条、第22条関係、及び有機溶剤中毒予防規則)
特別管理物質
特定化学物質等障害予防規則第38条の3及び第38条の4の対象となる特定化学物質
表示対象物質
法第57条、施行令第18条第1号、第2号 -別表第9及び第3号 -別表3
通知対象物質
法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号 -別表第9及び第3号 -別表3
労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度
作業環境測定を行うべき作業場(労働安全衛生法施行令第21条及び作業環境評価基準 - 実行上の管理レベル)。 詳細な仕様については、SDSの項目8を参照。
強い変異原性が認められた化学物質
変異原性が認められた新規化学物質(労働安全衛生法第57条の3第3項、労働基準局局長通達)。

腐食性液体
労働安全衛生規則 第326条 に示される、ホースをとおして、動力を用いて圧送する作業を行わせる事業者が特別な措置を講ずる必要のある腐食性液体

毒物及び劇物取締法
劇物 - 毒物及び劇物取締法別表第2及び毒物及び劇物指定令第2条
消防法:
引火性液体、第4類、第2石油類、非水溶性液体、危険等級 III、1000リットル
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
下表は、記載されている、該当すると考えられるカットオフ値を超える成分を示す

化学名又は一般名	CAS番号	化審法
ホルムアルデヒド	50-00-0	優先評価化学物質

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律
該当しない
労働基準法
化学物質により引き起こされる業務上の疾病 - 労働基準法第75条、労働基準法施行規則第35条及び別表第1の2、項目4の1
水質汚濁防止法
人の健康もしくは生活環境に係る被害を生ずるおそれがある物質として水質汚濁防止法第2条及び水質汚濁防止法施行令第3条の3で定める指定物質
水道法
水道法第4条、法定水質基準
大気汚染防止法
大気汚染防止法第3条に排出基準が規定されている大気汚染物質
大気汚染防止法第17条、第1項及び大気汚染防止法施行令第10条で定める事故時の措置の対象となる特定物質
大気汚染防止法第2条、第4項で定める揮発性有機化合物
大気汚染防止法第2条、第1項、第3号及び大気汚染防止法施行令第1条で定める有害物質(HAP)

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

国際インベントリー
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること

16. その他の情報

発行日 17-1-2023

改訂日 17-1-2023

改訂記録 第1 版。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例
凡例 項目8: ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA(時間加重平均)	天井値	最大限界値
*	経皮吸収	+	感作性物質

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ源
米国環境保護庁ChemViewデータベース
欧州化学品局
欧州食品安全機関(EFSA)
EPA (米国環境保護庁)
急性ばく露ガイドラインレベル(AEGL)
米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法

米国環境保護庁高生産量化学物質
フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)
危険有害性物質データベース
国際統一化学情報データベース(IUCLID)
製品評価技術基盤機構(NITE)
オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)
NIOSH(米国労働安全衛生研究所)
米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)
米国国家毒性プログラム(NTP)
ニュージーランド 化学物質分類 情報データベース(CCID)
経済協力開発機構、環境 健康 安全に関する文書
経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム
経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット
世界保健機構

免責事項
この安全データシート は、JIS Z 7253:2019 に準拠している。 このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい(洩)時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシート のおわり